

分科会 14

IMR2019 ～ いまから みんなで リカバリー～

(IMR=Illness Management and Recovery: 疾病管理とリカバリー)

- 出演者： 中村亮太（横浜市大精神医学）
中村修一、山口雅弘、秋津玲香、吉田雄大（鷹岡病院）
岸貴雅、齊藤祥子、堺孝太郎（藤沢病院）
永瀬 誠、内山繁樹 他（横浜市生活支援センター西）
渡辺厚彦（横浜市大センター病院心理室）
IMR 利用者数名
- 司会： 吉見明香（横浜市大病院精神科）
藤田英美（横浜市大病院心理室）

Illness Management and Recovery（IMR：疾病管理とリカバリー）は、リカバリーにとっても有用なプログラムです。

IMRは、アメリカ連邦政府によるEBP（Evidence-Based Practices）実施・普及ツールキットシリーズのひとつで、ACTや家族心理教育、援助付き雇用とともに、科学的根拠にもとづいた実践とされています。日本では、2009年に日本精神障害者リハビリテーション学会から発刊され、全国各地で普及が進んでいます。

この分科会では、IMRの概説のほか、IMRを実践している施設から、IMRがリカバリーにどう役立ったか、また率直な感想や体験談を当事者と実践者がお話しし、各自のリカバリーの歩みなども熱く語られました。

●「IMRの概要」 中村亮太

IMRの理念や大切にしている事柄、教材の具体的な内容や実践方法など、IMRの概要をわかりやすく説明されました。

●「IMRのデモンストレーション」 鷹岡病院の皆さん

鷹岡病院では、今、デイケアの利用者さんと病棟に入院中の患者さんとグループを作り、一緒にIMRを学んでいます。ファシリテーターは、デイケア利用者の中村修一さんが担当しています。

今回の発表では、IMRテキストの4章『社会の中で支えを増やすには』のデモンストレーションが行われました。デモンストレーションの中で、メンバーさんが『幻聴との暮らし』を自身で研究されて発表されました。人とつながりをもつ方法、人と出会うための場所などについて意見交換が行われ、IMRのセッションの進め方がよくわかる発表でした。

●「IMRを病棟でやっています～経験者からのメッセージ」 藤沢病院の皆さん

藤沢病院では入院患者さんを対象に病棟でIMRを行っています。IMRの参加者と実施したスタッフから病棟でIMRを実践してみたの感想が報告されました。

実践したスタッフから病棟でのIMRの概要が説明された後、実際に参加された方がIMR実践中のできごとや、自身のリカバリー目標などをインタビュー形式で発表されていました。発表からは藤沢病院のIMRの和やかな雰囲気が伝わりました。

<休憩 10分>

●「IMRを地域活動支援センターでもやっています」 横浜市精神障害者生活支援センター西の皆さん

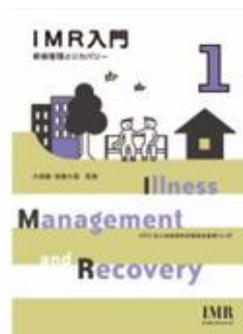
地域場でIMRを始めて7期目となりました。IMRを終了したOB・OGも含めて、こんな生活をしていきたい、こんなことができるようになりたい…、現在のリカバリーゴールに向けた取り組みや頑張っていること、IMRが日常生活にどのように役に立っているか…など、リカバリーについてメンバーとスタッフがインタビュー形式で発表しました。

●会場との意見交換 渡辺厚彦 ほか

IMRをやってみたいと思うと、いろいろな疑問や心配が頭に浮かぶと思います。

会場からの質問をお受けしました。実践にあたっての質問がいくつかあり、その返答として当事者の方が、IMRを行うことの意義や大切さを熱く話されていました。

《企画委員：中村亮太、加藤大慈》



▲ IMRの関連書籍